

中山間地域集落だより



青森県農林水産部構造政策課
平成20年3月28日発行

平成17年度から始まった中山間地域等直接支払制度の第2期対策も、3年目を終えました。皆さんの集落では、目標達成に向けて、順調に取り組んでいますか？

～各協定の活動を評価する『中間年評価』が実施されました～

平成19年度は、第2期対策の中間に当たることから、「集落」、「市町村」、「県」、「国」それぞれが各協定の活動状況を評価する『中間年評価』を実施しました。

各市町村による各集落活動の総合評価では、ほとんどの集落が「優」又は「良」の評価を受けましたが、活動内容があまり進んでおらず、市町村から助言を受けた集落もありました。

市町村評価の結果(主な内容)

1 取組内容ごとの評価

(単位：協定数)

取組内容		優良	適当	指導助言	返還等が必要
「マスタープラン」に定めた内容		33	564	16	0
耕作放棄の防止活動		40	567	6	0
水路・農道などの管理活動		179	434	0	0
多面的機能を増進する活動		56	543	14	0
10割単価の取組み	保全マップの作成、実践	13	222	8	0
	A要件(生産性・収益向上、担い手育成等)	51	159	32	0
	B要件(営農組織の育成、担い手集積化)	3	1	2	0

2 総合評価

(単位：協定数)

優	良	可	不可
190	414	9	0

市町村の評価は、国が示した「判断基準ガイドライン」に基づき、客観的に実施されました。

～中山間地域対策協議会委員と各地域の協定代表者による「意見交換会」が開催されました～

2月19日、青森市の青森グランドホテルで、「青森県中山間地域対策協議会」の委員と県内6地区の協定代表者等による意見交換会が開催されました。



協定代表者等からは、各協定の活動内容を報告していただくとともに、たくさんのご意見をいただきました。

協定代表者等の意見

他集落の活動状況がよくわからない。もっと集落協定間の交流があればよい。交付金は国民の税金から出ているのだから、景観の保全など、自分達の義務をきちんと果たすべき。

農地は、ただ作物を作るだけの場所ではない。子ども達が、川や田んぼで遊んだり、ホタルを追ったり、草花を觀賞したり、そういった体験をたくさんすれば、必ず将来、田舎を背負ってくれる人間に育つはず。

交付金の使い道を、もう少し自由にしてほしい。

青森は消費地が遠いので不利だが、よいものを作っている。自給率を高め、身近な消費者との繋がりを大事にするべき。

また、各委員からは、農業者の日頃の苦勞に対するねぎらいの言葉や、「この制度を多くの県民に分かってもらう必要がある。そのためには、子ども達に農業体験をしてもらったり、そば打ち体験や水車小屋などで集落外の人を呼んだりすることが大事。」「いろいろな作物にチャレンジしてほしい。」「もっと女性の声を聞いて、活躍できる場をつくってほしい。」といった意見がありました。



議長役の白川弘子氏

【参加された協定代表者等の方々】



各協定の活動内容を発表

青森市	細野集落協定	代表	斉藤光朗さん
黒石市	牡丹平開拓パイロット組合	組合長	佐藤康秀さん
新郷村	大畑集落協定	代表	山岸義一さん
深浦町	轟木明道土地改良区集落協定	会計	吉田満さん
六ヶ所村	戸鎖集落協定	代表	木村盛雄さん
"	"	会計	久保勝廣さん
むつ市	脇野沢農業振興公社(個別協定)	専務理事	藤江清悦さん

～ 県内 2 箇所 で「中山間地域活性化研修会」が開催されました～

弘前会場

3月4日、弘前市総合学習センターで開催され、約170名が参加しました。

前半は、弘前大学農学生命科学部の谷口建教授から、「グリーン・ツーリズムによる地域の活性化」と題して、講演いただきました。

後半は、階上町で地域づくり活動に参画している土橋美智子さんから、同町の田代集落協定の活動内容を発表していただきました。



谷口建教授の講演



土橋美智子さんの発表

同協定では、平成13年に「田代地区振興計画書～理想郷『タシロピア』の実現をめざして」を作成し、交付金を活用して遊歩道の設置、農作業の共同化、生活環境の整備、グリーン・ツーリズム、直売所の開設、その他たくさんの事業に取り組んでいます。その結果、「ボランティアの習慣が養われた」、「外部との交流が活発になった」、「住民の自信につながった」などの成果がありました。

十和田会場

3月11日、十和田市の富士屋グランドホールで開催され、約100名が参加しました。

前半は、外ヶ浜町の上小国集落協定で役員をされている小林忠幸さんと工藤智さんから、同協定の活動について発表していただきました。

同協定では、当初、「耕作放棄地の解消」に取り組み、これを達成したことから、第2期対策では「集落営農に向けた生産体制の整備」に取り組んでいます。



小林忠幸さん、工藤智さん

去年は、「営農組合」、「資源環境保全の会」、「ほ場整備組合」を設立し、さらに来年は、営農組合の法人化を目指しています。

また、農業生産活動以外にも、会報の発行（集落に毎戸配布）、講演会・研修会の開催、神社例祭・お山参詣の開催、小中学生の体験活動など、住みよいふるさとづくりに向けて、積極的に活動しています。

後半は、企業組合あつぷるびゅあ代表理事で、地域づくり、人づくりなど多方面で活躍されている柳沢泉さんに、「めざそう、究極の特区～女性の知恵を力にかえて～」と題して講演いただきました。

全国の中山間集落の優良事例として、新潟県朝日村の高根集落、高知県黒潮町の橘川地区の活動内容をご紹介いただいたほか、近年増加している農産物直売所の現状と課題、生き残り戦略についてもお話しをいただきました。



柳沢泉さんの講演

【優良事例の内容】

高根集落・・・一口5千円の出資と補助金で、廃校を利用して農家レストランを開設
橘川地区・・・人口24人の小規模・高齢化集落が、ハーブの生産で集落再生

県では、今後も、集落協定に参加している方々を対象とした研修会を開催していく予定です。代表者や役員だけではなく、たくさんの方々の参加をお待ちしていますので、ぜひ積極的にご参加ください。

今後の協定活動を見直してみませんか？

集落内でよく話し合っていますか？

最近、集落の共同取組活動がマンネリ化してきたと感じませんか？

集落協定で取り決めた活動内容は、より積極的な活動に見直していくことができます。交付金を有効に使うため、みんなでアイデアを出し合っ、新しい取組みにチャレンジしませんか？（話し合いには、女性や若者にも、積極的に参加してもらいましょう。）

他の集落を視察してみませんか？

「何かやろう！」と思っても、良いアイデアが出てこなかったり、どうしたらよいか分からないこともあります。そんなときは、他集落の活動を参考にしましょう。農林水産省のホームページでは、全国の優良事例が、取組みの種類ごとに、たくさん紹介されています。

また、現地視察すれば、取組方法の細かい点まで教えてもらえ、とても参考になります。

優良事例については、県庁でも情報提供します。お気軽にご相談ください。（県庁構造政策課 ☎ 017-734-9534）



農林水産省のホームページ